

令和7年度 白川町総合計画審議会 会議録

1. 開催日時 令和8年2月19日(木) 午後1時24分 開会
2. 開催場所 白川町役場 第1会議室(1階)
3. 出席委員

会 長	竹内治彦君	副 会 長	田口守也君
委 員	加藤邦之君	委 員	長尾達美君
委 員	細江辰男君	委 員	後藤茂巳君
委 員	塩月祥子君	委 員	山中剛彦君
委 員	有田恒文君	委 員	太田紀宏君
委 員	小栗敏弘君	委 員	浅井長可君
委 員	井道隆輔君	委 員	鈴村逸策君
4. 欠席委員 委 員 榊間博幸君 委 員 安江万美子君
5. 職務のために出席した者の職氏名

町 長	佐伯正貴君	副 町 長	安 江 章君
総務課長	大岩裕樹君	庁舎整備室長	竹腰耕太郎君
企画財政課長	西野仙幸君	振興課長	渡口彰規君
町民課長	長尾茂気君	保健福祉課長	長尾ひろみ君
農林課長	安江宏行君	建設環境課長	中村 豊君
教育課長	鈴村幸祐君		
6. 説明のために出席した者の職氏名

企画調整係長	有田真弥	企画係長	鈴村元秀
--------	------	------	------
7. 会議の経過
 - (1) 任命書の交付
企画財政課長 任命書の交付について説明した。
 - (2) 開会
企画財政課長 開会する旨を宣告した。(午後1時26分)
町 長 あいさつした。
 - (3) 委員紹介
企画財政課長 委員名簿により委員紹介を行った。あわせて、欠席委員の報告をした。
 - (4) 会長、副会長の選出について
企画財政課長 会長、副会長の互選を議題とし、選出方法について意見を求めた。
後藤茂巳委員 事務局で原案があればお聞かせいただきたい。
企画財政課長 事務局案を提案。(拍手多数)
拍手多数により、竹内治彦委員を会長に、田口守也委員を副会長に決定した。

会 長 あいさつした。

(5) 協議事項

会 長 協議事項として、(1)総合計画審議会と人口の動向について、(2)白川町第6次総合計画の検証について、(3)第3期白川町まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価について、までを一括議題とし事務局に説明を求めた。

企画調整係有田 資料により説明した。

会 長 事前質問の2件について、事務局に説明を求めた。

企画調整係有田 塩月祥子委員から資料 8 ページ「体験プログラムによる宿泊数」について、KPI の根拠が（“とみだ”と“まちやど在所”の宿泊体験数のみ）となっているが、令和4年度以降、宿泊施設が増加しており、現在はその他に 11 施設が開設、それぞれ体験プログラムによる宿泊受入を行っている。宿泊体験者数は、令和4年度 416 人、令和5年度 481 人、令和6年度 998 人。数値修正が可能ならお願いしたい、というご意見です。

田口守也委員から資料 10 ページ「応援人口（ふるさと会）」について、現在の会員数、年会費額、主な活動内容を教えてほしい。提言として、会費や活動の見直し、白川の特産品を送る等で会員増強につながらないか、というご提言です。

会 長 事前質問の2件について、振興課長に説明を求めた。

振 興 課 長 まず1点目の体験プログラム KPI の修正提案についてですが、結論から申し上げますと、KPI の数値についての修正は行わないということです。理由ですが、“とみだ”と“まちやど在所”については公共投資で整備した施設です。この施設の中でどんな体験プログラムを行って、関係人口をどれだけ増やしたのかを測るための数字なので、ここはこのまま提示していきたいと思います。一方で、グリーンツーリズム協議会主体で町内の民泊・農泊等が増えている。いただいた数字も拝見しましたが、この3年間でものすごい利用者を増やしていただいている。本当にすごいことだと思います。官でやっている部分、民でやっている部分、それぞれを、この場で意見交換しながら共有していきたい。非常にポジティブな情報だと思うので、共有させていただければと思います。今後ともよろしく願います。

2点目、ふるさと会についてです。町の出身者で、今は町に住んでいない方々に組織いただいているものです。現在の会員数は 245 名です。ご指摘の通り年々少しずつ脱退、自然減もあります。ただ会長以下役員さんの思いもあって、家族まで話を持っていってもらって、少しずつ新規会員も増えている、嬉しい面もあります。会費は今年度から 500 円値上げして、

今まで1,000円だったのが1,500円です。上げたことで辞める人が増えるのでは、という心配もありましたが、そこまで影響はない状況です。活動内容は、広報白川を年3回まとめて発送しています。新茶のシーズンには白川茶の新茶を同封して、ふるさとの良さを知ってもらい取り組みを続けています。また以前は年1回の町内巡りツアーを企画していましたが、活動をもう少し活発にしようということで年2回に増やしています。参考として昨年度は、町民会館でイタリア交流記念のコンサート（ルカさん）と、（歌舞伎の案内）を行いました。今年度は大山白山神社に行くのと、商工会青年部のイベント（三川ドーム）にも参加いただきました。参加者からは「馴染みの事業者に会えてよかった」「楽しかった」という声が多く、よかったと思っています。反省点としては、ふるさと会がどのような活動をしているか、町民の皆さんに伝わっていない点です。ここは今後、紹介を強めないといけないと思っています。会長とは頻繁に連絡を取り合い、今後の活動をどうしていくか相談しています。「発展的解散」という声も出たりはしますが、会長はまだまだやりたい、ふるさとを応援したいと前向きです。町としても非常に心強く思っております。ご提案ありがとうございます。

田口守也委員 会費を増やすだけでなく、例えば1万円くらいにして年2回、白川のお米、お茶など特産品を送るような交流もいいのでは。いずれにしても、ふるさと会がますます発展することを望んでおります。

加藤邦之委員 先ほどのふるさと会の話に関連しますが、神社の資料に昔の写真が載ってまして、私が昔の神明神社の写真を親戚に送ったところ、年配の方なので昔の記憶がよみがえって、非常に感動されたんです。電話がかかってきましてね。そういった昔の写真や歴史資料を、役場の方でも少しずつ活用して、何か発信していくと面白いんじゃないかなと思いました。

振興課長 ありがとうございます。今聞いていて、便りを出すときに、そういった昔の写真と同封するなど、「懐かしさ」を刺激する仕掛けはできるかなと思いました。ブラッシュアップして活用させていただきたいと思います。

後藤茂巳委員 以前、大野台のグラウンドに用事があって行ったときに、町外者の野球チームが練習で使っていました。地元では打球音が近所迷惑になるということで、探して白川町に来たそうです。体育館でも町外チームが使っていると聞いています。将来的に学校統合で空く施設が出てきたとき、町外利用者がどのくらいいるのかという指標も参考になるのでは。

例えば、利用チームにクオーレのパンフレットを置くとか、弁当の紹介をすとか、PRの工夫もできるのではないかと。問い合わせ件数や断つ

た件数なども含めて、潜在的な需要を把握していくと面白いと思います。

教育課長 大野台グラウンドは町外利用が増えております。民家がないため音を気にせず使えること、自然の中で思い切りできることが評価されています。旧白川高校跡地でも、合宿利用でクオーレを紹介した事例があります。指定管理者と連携し、町外利用の状況も整理していきたいと思います。

会長 都会では部活動施設が大人に占拠されている状況もあります。ニーズはあると思います。人口については、これから自然減が加速します。戦後最大ボリューム世代が 80 代に入り、死亡数が増える。これは全国共通です。出生件数そのものより、「お母さん世代がどれだけいるか」が重要。人口ピラミッドを見ると、20 代の層が課題。安心安全の追求、防災拠点整備などは重要だと思います。

小栗敏弘委員 今の自然減と社会減の話聞いていて、主な人口減少は 2008 年からでしたかね。人口が減少し始めたのは 2005 年からでしたか。まあ、これは致し方がないという話で、確かにそう思いますが、やっぱり考えてみると、結婚、出産、子育て、就職と、切れ目なく支援していく体制というのはものすごく大切だなと今思いました。

社会減対策として、やはり住宅の手厚い支援も大切ではないかと思っています。今の空き家の状況ですが、年々増えていて、実際、役場庁舎の周りでもどんどん増えている状態です。空き家になっているために土地を買わないという人もみえますし、更地になれば買ってほしい、駐車場に使いたいという話もあります。例えば、解体についての補助金が町として出ているのかどうか教えていただきたいというのが一点です。

もう一点は、白川町だけでなく、周りの市町村を巻き込んだ形での自治体の魅力づくり、いわゆる広域連携の取組について、例えば東白川村や他市町村と連携して社会減対策を行っている事例があれば教えていただきたいということです。

振興課長 町での空き家の取り壊しに対する費用の助成ですが、現在行っておりまして、最高で 50 万円の支援があります。申請件数も前年より増えており、町内の空き家を減らしていく一つの支援になっているのではないかと考えています。

また、広域連携による社会減対策についてですが、現在、美濃加茂市が中心となって進めている定住自立圏構想がそれに当たるかと思っています。いわゆる行政界ではなく生活圏として捉え、美濃加茂市に通勤・通学しても白川町に戻ってこられる、家の手伝いにも来られる、そういった構想のもとに動いています。本町も参画している状況です。

会 長 10年ほど前の話ですが、白川町は岐阜県内で人口減少率が一番高い自治体だったということです。ただ、それは合併しなかったからであって、合併していればそういう数字にはならなかったという話もありました。美濃加茂市の定住自立圏構想については、特別交付税もあるということですが、どちらかというとは合併を避けるための選択だった面もあるのではないかとこの見方もあります。郡上市のように、周辺町村を引き受けて合併し、広い区域を抱えている事例もあります。

人の暮らしは自治体単位で完結するものではありません。それを止めるのは現実的に難しいと思います。ただ、何もしなければ、美濃加茂市あたりまで移るのは仕方ないと認めることになり、白川町としてのメリットはなくなってしまいます。やはり出身者ネットワークを強化し、町外に出た人が何らかの形で町に思いを持ち、いざというときに助けてもらえる仕組みづくりが大事ではないかと思えます。出身者の会なども、より充実させていくことが必要ではないでしょうか。

細江辰男委員 川辺町あたりに白川町出身者が多いという話もありますが、白川町に住むメリットがあるとすれば、生活コストが抑えられる点ではないかと思えます。美濃加茂市まで行く前に、白川町にとどまってもらうための住宅支援など、住み続けることへのインセンティブづくりが必要ではないかと思えます

振興課長 町としても定住支援として、新築住宅への支援、子育て世帯のリフォーム支援、新婚世帯への支援など、金銭的な支援は充実させているつもりです。他市町村と比べても遜色ない内容ではないかと考えています。

町 長 町外居住者との関わりの方角から、山中剛彦委員に意見を求めた。

山中剛彦委員 以前、消防団員は町内に住所があることが条件でしたが、団員確保が難しくなる中で、町外在住でも白川町に関わりのある方を団員として認めていく方向となっています。また、いわゆる幽霊団員の整理を行い、実際に活動している団員個人に報酬を支払う形に改めてきました。

今後は、町外在住でも町に関わりのある出身者などを大切に、有事の際だけでなく平時の活動も含めて地域とつながってもらい仕組みを考えています。

会 長 人もシェアしていくという考え方は戦略的だと思います。自治体単位ですべてを抱えるのは難しい中で、広域で支え合う仕組みは重要だと感じます。

鈴木逸策委員 現在、白川町でも山林火災警報が発令されていますが、全国で大規模な山林火災が発生しています。白川町でも同様の大規模火災が起きた場合、

消防団員の数が不足するのではないかと思います。数日間にわたる災害の場合、地元で関係組織をつくるなどの体制づくりも必要ではないでしょうか。

山中剛彦委員 人命捜索や山林火災、河川の出水警戒などは長時間にわたる活動が必要です。交代制で対応できる体制づくりも重要だと考えています。組織の形も変えていかなければならないと考えています。訓練のやり方については徐々に変えてきてはいますが、地域の協議会、いわゆる自治会の存在が一つの鍵になるのではないかと考えています。火災時の消火活動は危険を伴いますので、日頃の訓練やポンプ・車両の取り扱いを誤ると大きな事故につながります。そのため、日常的な点検や訓練を行っています。いざという時に団員が少ない場合については、機能別団員として 70 歳までの方に協力いただいております。佐見地区でも現在 15 人ほどの OB 団員が協力隊員として活動しています。消防団の傘下ではありますが、OB 会のような形で組織しています。ただ、5 年、10 年先を見据えると、訓練を積んだ人材もさらに減っていきます。60 歳から 70 歳くらいでまだ元気な方に、違った形で地域の役割を担っていただくことも必要ではないかと考えています。

今年は、これまで分団幹部を務めていた 50 代のメンバーが、もう一度団に関わるという動きもありました。本部の分団長まで務めたメンバーが、退団後に再び若い団員と一緒に活動するという形です。そうした世代間のつなぎ役のような形を来年度から進めようとしており、大変ありがたいことだと感じています。

いずれにしても、消防団だけでは広い地域での災害対応は難しく、特に時間がかかる事案では地域の力が重要になります。自治会や OB の皆さんと一緒に何ができるかを考えていくことが大切だと思います。東消防署から到着まで 40 分、45 分かかる地域もありますので、特にそうした地域では危機感を持ち、自分たちで守るという意識を醸成していく土壌づくりができればよいと考えています。

有田恒文委員 全体的な進め方について意見を述べさせていただきます。白川町のホームページに掲載されている第 6 次総合計画の説明を拝見しました。その中で PDCA の考え方が示されておりました。私も自動車関連企業に勤めておりましたが、PDCA を回していくことを基本にしてきました。しかし、近年はコロナ禍やロシア・ウクライナ戦争、大規模災害など、予想を超える環境変化が続いており、計画を立てても実行中に前提が変わってしまうことが多くなっています。令和 3 年から 10 年までの長期計画ということですが、最初に立てた計画と現状はかなり変わっているのではないのでしょうか。

毎年このような会議を行うのであれば、元となる計画自体も必要に応じて見直し、修正していくべきではないかと感じました。

企画財政課長 先ほどのKPIについては、国の基準に基づく部分があるため変更できないものもありますが、数字について必要があれば柔軟に見直していく考えは持っています。第6次総合計画に記載している基本施策や基本方針は変えずに、細かな数値は状況に応じて見直していきたいと考えています。

会 長 国のフォーマットに基づき5か年計画を作成しており、交付金なども関係しているため、毎年すべてを見直すことは難しい面があります。ただし、迅速な対応が必要な場合には、議会や町の執行体制の中で適切に対応していくものかなど。計画の基礎を頻繁に変えると評価が難しくなるため、事務局としては慎重な立場になりますが、民間的な視点から遅いと感じられることも理解しております。そうしたご意見も踏まえて行政運営をしていく必要があります。

加藤邦之委員 8ページの基本政策、農林業振興の林業についてですが、木材搬出量が増えている一方で間伐面積が減っている点についてです。市場の取り扱い量としては、八百津町からの搬入が多い状況です。白川町としてはやや情けない面もありますが、そのような背景があります。国は皆伐して再造林を進める方向にありますが、白川町としては間伐を進める方針のようです。また、町の働きかけで林業の担い手育成協議会を設立し、数年が経過しました。その成果の一つとして、林業の事業体を設立された方がいます。川辺町に会社を構え、白川町側の仕事を担っていただいています。必ずしも白川町に住んでいなくても、会社として関わり、将来的に家族が移り住む可能性もあります。林業分野としての現状報告ということで発言させていただきました。

会 長 他に質疑がないので、(4)デジタル田園都市国家構想交付金の事業評価について、事務局に説明を求めた。

地域支援係鈴木 資料により説明した。

会 長 質疑を求めた。

後藤茂巳委員 庁舎での支払いについてですが、行政関係の支払いはどうなっていますか。また、町外者カードは本当に増やした方がよいのでしょうか。

地域支援係鈴木 まず、庁舎での住民票等の各種手数料の支払いにつきましては、チャージしたマネーの利用は可能です。本庁および各出張所に端末を設置しており、ゴミ袋の購入についても支払いが可能です。なお、隣のカフェでもチャージマネーは利用できます。

続いて、町外者カードの活用についてですが、町内の経済規模には限り

がありますので、町外の方にも魅力を発信し、利用していただくことが必要と考えています。町内のお店でしか使えない仕組みですので、町内にお金を循環させるという意味では大きな成果であると考えています。

町民課長 現在、町の窓口で利用できるのはチャージしたマネーのみで、ポイントは利用できません。当初の計画どおり、マネーのみの利用としています。

ゴミ袋購入などで来庁される方もいますが、町の窓口で利用してもポイントは付きませんので、できるだけ町内商店での利用をお願いしているところです。

会長 お金やポイントの扱いについては評価が難しい部分もあると思います。

国の交付金に関連してポイント付与をしている自治体も多いですが、その場合、実際の流通額はどれくらいなのか、交付金分を除いて算出できるのでしょうか。

地域支援係鈴木 計算上は除くことが可能です。

会長 それで実際の利用状況を見てみる必要があると思います。他の自治体では、システムを開発してもあまり使われていないという話もあります。どこでも使えるバーコード決済がある中で、町内限定の通貨決済をどれだけ利用してもらえるかが課題です。都市部では難しい面もありますが、本町のように比較的閉じた経済圏であれば、利用の可能性はあるのではないかと思います。地元商店での利用促進と住民の利便性とのバランスを考えながら進める必要があると思います。

地域支援係鈴木 本事業は令和6年度から8年度までの事業です。システム整備は6年度に実施し、KPI 評価は3年間で行う予定です。一定の成果が出ているものについて評価いただく形になります。

会長 一定の成果が確認できる事業として評価することについて委員に諮った。
(委員了承)

鈴木逸策委員 デジタル化についてですが、高齢者にとっては横文字が多く、分かりにくい面があります。利用方法をもう少し分かりやすくしていただけるとありがたいです。小さい文字が読みにくいことや、操作を誤ってしまうこともあります。

地域支援係鈴木 デジタルに対して不安を感じる方もいらっしゃると思いますので、現場に出向いて実演しながら説明していきたいと考えています。シニアクラブの総会や各種会合などにお呼びいただければ伺います。公共交通と同様、「使わず嫌い」をなくすよう、丁寧に対応していきたいと思います。

会長 他に質疑がないことを確認し、進行を事務局に引き継いだ。

(6) 閉会

企画財政課長 閉会あたり副会長にあいさつを求めた。
副 会 長 閉会にあたりあいさつした。

(終了 午後 2 : 5 5)